

JAUW 茨城支部だより 2016 年度-1 号

URL <http://jauw-ibaraki.net/> 2016 年 6 月 29 日 一般社団法人 大学女性協会(JAUW)茨城支部 発行



紫陽花の花が、梅雨空に彩りを加えています。皆様、いかがお過ごしでいらっしゃいますか？

5月21日、第5回全国定時会員総会出席に向け、初めて茨城空港から神戸へ向かいました。朝8時過ぎの出発で9時過ぎには神戸に着き、会場のホテルにも10時前に到着という短縮・快適な空の旅でした。支部長会前に、異人館を散策する余裕もありました。阪神淡路大震災から21年目を迎えた神戸は、何事もなかったように、観光客も多く活気に満ちた異国情緒の街でした。5

年前には、あの東日本大震災が起き復興も道半ばの中にあって、4月には熊本地震が起きました。20年という短い期間で、日本各地で大震災が3つも起きているのです。昨年の仙台総会に次いで神戸という被災地に降り立ち思い巡らす事は、地震大国日本に生きる危機意識は、常に持っていないとてはならないという事です。

支部長会での意見交換会後の懇親会では、神戸支部の会員のフルート演奏や独唱のミニコンサートも堪能しました。翌22日の楽天の三木谷社長の講演会には、会員外の男性も多く参加され、賑やかな講演会でした。終了後に総会が開催され、我が茨城支部のMさんが副会長に就任されました。またZさんは女性エンパワメント委員長、Mさんは新規事業委員長に就任されました。本部で活躍される3人の先輩にエールを送りたいと思います。また、わが支部からKさんも参加されました。支部アピールでは、今年度の最重要事業として、本出版制作に取り組んでいる事を報告いたしました。改めて、統括編集委員として全力を挙げて取り組んでいかななくてはと決意新たにしました。とにかく今年中の完成目指し、買ってもらえる本、読んでためになる本制作のために、更なる会員の皆様のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

(支部長 M・K)





第5回全国定時会員総会に出席して

5月22日に神戸市で行われた総会に初めて出席しました。理事改選では中村会長が再選され、茨城支部のMさんが副会長に選出されました。

午後には楽天株式会社の三木谷浩史代表取締役会長兼社長の公開講演会がありました。ご多忙の中ヘリコプターで会場に到着されたとのこと。時代の先端を走る企業オーナーの講演とあって会員以外にも多くの方が参加されていました。(以下簡単な内容)

<幼少期から起業に至るまでの事>

小学校4年～6年までアメリカ在住「日本という小さな枠で考えてはいけない」

- 日本興業銀行時代「情報科学社会の先駆者となろう」「日本を変える！世界を変える！」「ルール（規制）を破壊する（ex.後の医薬品ネット販売へ）」
- 1995年阪神淡路大震災で被災「人生は一度きりで短い、挑戦すべき時はするべき」起業を決意

<楽天の創業と成長>

- 1997年5月創業時：楽天市場 13店舗 1か月の売上 32万円（大半をご自身が購入？）
→2015年現在：4万店舗、売上収益 7000億円超、総流通額 9兆円、25か国で展開
- オープンな企業文化：日本本社の社内公用語の英語化
→社員の TOEIC スコア上昇、有能な人材が世界中から集まり従業員の国籍 60か国
→多様性がイノベーションを生む
- ダイバーシティ：女性社員 37%（楽天市場は 50%超）で女性管理職 18%（理由：女性技術者が少ない、女性側が躊躇、在宅勤務のセキュリティ問題）、産後の女性復職率：2013年 84.3%→2015年 96.9%（理由：社内託児所、ベビーシッター補助、復職支援セミナー）

<インターネットは世界をどう変えるのか>

- 生活のオートメーション化：ドローンの活用をゴルフ場にて実験中
- ITで世界中がつながる時代の国家のあり方や 2045年シンギュラリティ（人間の知能を AI が上回る）問題についても考察中

とても簡潔明快なお話で大変充実した1時間でした。インターネットの飛躍的進化を誰よりも確信し起業したご自身の経験から「可能性を信じて進むことの重要性」を説いていらっしゃいました。スケールは違いますが、私たちも進むべき方向に進むために、自ら考え、準備を怠らず努力することが大切だと改めて気づかされました。全国の会員の方とも交流することができ有意義な1日でした。

(H・K)





本出版にあたってのフリートーク

～文眞堂前野社長と長谷川先生を囲んで～

4月23日支部総会終了後に総会特別講話として、茨城大学長谷川准教授と（株）文眞堂前野隆社長の対談が開催された。支部長から、「出版企画について本日初めて耳にする機会の方々とも、改めて意見をひとつにするために」、「茨城大学連続講座の機会を得て、社会に見える化する、活動を次世代につなげることを目的としている」との出版意図の説明がなされ、編集企画案書が支部会員全体向けに提出された初めての機会となった。

長谷川氏からは、「次に何を渡していくかだ」とのお話の導入で、アンケートをたくさんやってきたが他と何が違うか、他とは違う何かを出す。JAUWは円卓会議すなわち丸いプラットフォームだということを含める。男女共同参画の教科書ではない副読本か参考書のような、学生にも使えるような生きいきしたものに、などのアドバイスがあった。前野社長からは、皆が興味を持てる中身を。皆が読む本、売れる本であるためには客観的な意見が必要となるが、そのために長谷川先生が付いていることの重要性がある。自費出版ではないので、2年間で2000部は売って回収したい。印税分の本、約200～300部を支部で売ることになるか、とのことであった。

そのあとのフリートークでは、活発な意見交

換に。アンケートには真実があるけれど、その真実を一般の方々に広めなければ⇒2004年に出前講座がスタート⇒「伝えよう」から「どのように伝えられるか」が問題に⇒学生に講座ができるようになった、という流れが確認された。一方、婦人会館創設時の苦労話など、支部のエポック的な事柄は時系列的な扱いではなく、コラムに納めるかなど、支部会員の膨大な思いの塊をどう扱うかも話し合われた。「活動報告ではない。今までの実績をと思うだろうが、それにとらわれないことが大事」とのアドバイスが、個々の心にどう残っただろうか。

支部は調査研究を本骨頂としてきた。ソフトを駆使してのデータ分析には、N会員の専門性に依るところが大きかったことを忘れてはならない。また、初めて2004年にスタートした出前講座の準備では、原案作りに夜更けまで何度も議論した。笠間市役所講座での熱心に耳を傾けてくれた男性職員の顔が忘れられない等々。役員は各自が担当した時期が自分にとっての最大エポックだということに、現担当役員がどれだけお思いを馳せることができるか。出版は読者の気持ちになって創作することが肝心だが、テーマを絞るなら、一時期の思いを打ち出すだけと誤解されない編集が望まれる。出版物の挨拶文では、支部会員にその思いをうまく伝えてもらえたらと切望せずにいられない。

(Z・Z)





新会員自己紹介

Y・Nさん*

水戸市在住のY・Nです。県立高校、中等教育学校に勤め、3月に定年退職しました。現在は、茨城大学の監事をしています。時間に余裕ができましたので、何か貢献できる活動をしたいと思っています。宜しくお願いします。



2016年度総会資料の訂正について

去る4月23日に開催しました総会で配布しました資料のうち、事業報告の一部を下記のように追加訂正し、会計報告については本部会計報告から支部会計報告に差し替え訂正報告致します。

Ⅱ、国内奨学生選考・推薦

筑波大学から一般奨学生1名と社会福祉奨学生として1名ずつ推薦。
本部の選考結果、1名の一般奨学生が選考承認される。

編集後記

TVドラマ「ゆとりですがなにか」が話題を呼んだ。

我が家の子どもたちは、ゆとり世代。そしてその子らを育てた私と夫はしらけ世代。青春まっただなか、学生運動なんてもうダサいと政治的無関心を装った時代。従って我が家はゆるゆる家族。

団塊 新人類 バブル 団塊ジュニア（いちご） 新人類ジュニアなど、その他の世代もいろいろと呼び名がある。世代の特徴で個々の性格を限定してしまうのは占いのようで好かないが、生まれ育った時代背景を知り、価値観が変容していく様を知るのは楽しい。皆さんは何世代？
